

世界史プリント(1-7) 生徒番号( )氏名( )  
 第1章 2. ギリシア世界 b, ポリスの成立・発展と奴隷制(2)  
 ⑥ポリスの構造=市域([1 城壁])でかこまれる)と、周辺の[2 田園]地帯

ア、[3 **アクロポリス**]…神殿のある高台、非常時は要塞に使用  
 イ、[4 **アゴラ**]…商業や会議、裁判などが行われる広場  
 ウ、中心市…貴族や商工業者が集住(シノイクスモス)  
 エ、田園地帯…市民の[5 **持ち分地**](クレーロス)があり、多くはここで農業を行う

c. 民主政へのあゆみ

- ①前7世紀まで…高価な武器を持ち、騎馬で移動する[6 **貴族**]が政治を独占する
- ②貿易活動の活発化→富裕な平民は自ら[7 **武器**]を購入し、戦争に参加  
 戦術の変化…[8 **貴族**]による騎馬戦術→[9 **平民**]による[10 **重装歩兵**]戦術へ  
 ↓  
 これを背景に、[11 **平民**]は貴族と対抗して政治への参加を要求する。  
 →[12 **民主**]政へのあゆみがすすむ

<アテネの民主政の進展>

[13 **イオニア**]人がたてた[14 **アテネ**]では前900ころポリスが形成されてきた。しかしこのころの戦争が貴族による騎兵戦術をとっていたこともあって[15 **貴族**]政がしかれていた。しかし前750ころになり商業や貿易活動で力を伸ばした裕福な[16 **平民**]のなかには自ら武器を購入し[17 **重装歩兵**]として戦争に参加するものも現れ、彼らが軍隊の主力となっていた。  
 これを背景に[18 **平民**]たちは政治への参加を求め、前7世紀ギリシア最古の成文法[19 **ドラコン**]の法が制定され、前6世紀初には[20 **ソロン**]が市民の[21 **財産**]に応じて権利義務が定めるという改革を行った。([22 **財産**]政治)  
 しかし平民の政治参加の要求は強く、前6世紀中～後期には平民の不満を背景に非合法な手段で政権につく[23 **僭主**]たちがあらわれた。とくに有名なのが[24 **ペイシストラトス**]である。  
 このような僭主政治を防ぎ[25 **平民**]の政治参加をすすめたのが前6世紀末の[26 **クレイステネス**]である。かれは[27 **陶片追放**]を採用して僭主の出現を防ぐとともに、平民の政治参加の道を開く改革を進めた。ギリシア史ではこれ以降を[28 **民主**]政としてとらえている。

政治の形態	主なできごと	戦術の変化など
王政 →[29 <b>貴族</b> ]政	前900ころ ポリスの形成	貴族主体の騎兵戦術
↓	前750ころ 商業、貿易活動の活発化 →植民、貨幣経済進展、富裕市民成長	[30 <b>重装歩兵</b> ]戦術 =平民の台頭
	前7世紀 [31 <b>ドラコン</b> ]の法 →ギリシア最古の成文法	[32 <b>民主</b> ]政を要求し、貴族と対立
[33 <b>財産(金権)</b> ]政治	前6世紀初[34 <b>ソロン</b> ]の改革 →財産に応じた権利義務を定める	↓

僭主政治 →借金の帳消し=[35 **債務奴隷**]を阻止 [36 **平民と貴族**]の対立激化  
 前6世紀中～後期  
 [37 **ペイシストラトス**]の僭主政治

※僭主政治…僭主とは、38 **非合法な手段で政権を奪った人物**をいう。貴族と平民の対立が激化するなかで、[39 **平民**]の支持を得て非合法な手段で貴族を倒し権力を握るものが多くのポリスで出現した。多くは専制的でその権力も永続しなかった。

[40 **民主**]政の成立 前6世紀末 [41 **クレイステネス**]の改革  
 →[42 **陶片追放**]制度採用など  
 部族制の改編(貴族勢力の基盤を破壊)

※陶片追放(オストラキスモス)…アテネの[43 **クレイステネス**]が[44 **僭主**]の出現を防ぐために行った制度。陶器のかげらに僭主になるおそれをもつ人物の名をかかせ、一定数(6000票)を超えるとアテネから国外追放することとした。

民主政を徹底させる役割を果たしたのが[45 **前5**]世紀前半の[46 **ペルシア**]戦争である。ギリシア諸国は圧倒的に強力な[47 **アケメネス**]朝ペルシアと戦い、[48 **サラミス**]海戦などにより独立を維持した。この戦争の過程でアテネでは水兵としての活躍した[49 **無産市民**]が台頭、その権利が拡大し[50 **民主**]政が徹底した。このアテネの全盛期を当時の指導者の名をとって[51 **ペリクレス**]時代という。この時代は三大詩人があらわれ、[52 **パルテノン**]神殿が再建されるなど「ギリシアの黄金時代」とされる。しかし、その背景には[53 **デロス**]同盟の資金を流用する財政的な裏付けがあった。

民主政治の徹底 前5世紀前半 [54 **ペルシア**]戦争 水兵=[55 **軍艦の漕ぎ手**]  
 →ペルシアを破る=「民主政治の勝利」 の活躍→無産市民の台頭

ペルシア戦争…前5世紀前半、アテネを中心とするギリシアのポリスとエーゲ海東部・北部へ進出してきた[56 **アケメネス**]朝ペルシアの間でおこった戦争。[57 **ミレトス**]など小アジアの[58 **イオニア**]植民市がペルシアに占領され、これに反対して発生した反乱をアテネなどが応援したため発生した。前490年のマラトンの戦いに勝利した。前480年には[59 **テミストクレス**]率いる海軍が[60 **サラミス**]海戦で勝利、前479年には[61 **スパルタ**]と連合した陸軍がプラタイアの戦いで勝利し、ペルシアの侵攻をくいとめた。この戦争は一般に「東方の[62 **専制**]政治にたいする[63 **民主**]政治の勝利」と評価され、ギリシア人の自信を深めた。

民主政の全盛 前5世紀中期[64 **ペリクレス**]時代  
 [65 **デロス**]同盟背景  
 三大詩人の活躍、パルテノン神殿再建

デロス同盟…[66 **ペルシア**]の報復をおそれるエーゲ海周辺のポリスが[67 **アテネ**]を盟主として組織した攻守同盟。実質的にはアテネが同盟に参加する諸ポリスを支配した。この同盟の資金をアテネが流用し[68 **パルテノン**]神殿を造るなどアテネの黄金時代を実現することになる。